大坂 全豪2度目V

女子テニス 四大大会4勝目

【メルボルン共同】女子テニスで世界ランキング3位の大坂なおみ(23)＝日清食品＝が20日、メルボルンで行われた四大大会第1戦、全豪オープンのシングルス決勝で同24位のジェニファー・ブレイディ(25)＝米国＝を6―4、6―3で下し、2年ぶり2度目の頂点に立った。四大大会制覇は2018年と20年の全米オープンを合わせて4年連続4度目となった。（9、24面に関連記事）

大事な場面で勝負強さを発揮し、ストレート勝ちで優勝賞金275万豪ドル（約2億2800万円）を手にした。大坂は、新型コロナウイルス禍での今年最初の四大大会で最高のスタートを切り、東京五輪の金メダル獲得へ弾みをつけた。

テニスの全豪オープン女子シングルスで2年ぶり2度目の優勝を果たし、笑顔の大坂なおみ＝20日、メルボルン（AP＝共同）

大坂は7試合を勝ち、昨年8月から4大会にまたがる連勝を21試合に伸ばした。ツアー大会は通算7勝目。22日付世界ランキングで2位に浮上する。

新型コロナの影響で当初予定した1月から3週間延期となり、2月8日に開幕。選手はオーストラリア入国後、2週間の隔離生活を強いられた。

最高の経験

大坂なおみの話 私のチームに感謝したい。隔離生活でも協力して支えてくれた。チームは家族同然。このトロフィーはみんなのもの。また四大大会で優勝できて、最高の経験になった。（共同）

「トロフィーに名を刻むより 大きなことがある」

反差別活動 コート外でも

新型コロナウイルス禍で先行きが不透明な中、自らと同じマイノリティー（人種的少数派）や女性ら社会的弱者に優しいまなざしを向け、力強いプレーで勇気を与える。全豪オープンでシングルス決勝を制した23歳の大坂なおみ（日清食品）はテニス界の枠を超え、今や世界を代表する女性アスリートだ。ジェニファー・ブレイディ（米国）に押される場面もあったが、女王の強さを示し「あなたのお母さんも友人も誇りに思っている」と相手を思いやった。

ハイチ出身の父、日本人の母を持ち、3歳で移住した米国で始めたテニス。夢を実現するにつれ、使命感が心に宿った。「前は日本人最初の四大大会覇者になり、歴史をつくることがゴールだった。今も全て勝ちたい。でも、優勝トロフィーに名を刻むことより大きなことがある」とコート外にも活動の幅を広げる。

人種差別に抗議し、黒人被害者名が入ったマスクの着用で注目を集めた昨年の全米オープン。「私はアスリートである前に黒人女性」と主張し、その行動に共感の声が広がった。全豪前には「新型コロナによるアジアのコミュニティーへの差別には嫌気が差す」とツイッターで発信した。

男児よりも低い女児のスポーツ参加率を上げるプログラムにも協力。1月にはサッカー米女子プロリーグNWSL覇者のカレッジの共同オーナーに就任した。

一人の人間として成熟し、試合や会見で泣いた姿はもうない。政治的な質問にも言葉を選びながら対応する。東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗前会長の女性蔑視発言を「少し無知な発言」と語り、橋本聖子会長誕生に「女性にとっての障壁が壊されるのはとてもいいこと」と歓迎した。テニスを最優先に取り組む大坂は自身のことを、仲間の努力を受け止める「器」と表現する。その大きな器には多くの人の夢や希望も詰まっている。（共同）

「トロフィーに名を刻むより　大きなことがある」を読んで感想を書きましょう。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。